

## ◆今期間のポイント

## &lt;主要じょう乱の概要&gt;

- 24日は、低気圧が千島の東へ進み、大陸の高気圧が日本付近に張り出す。日本付近は、西高東低の冬型の気圧配置となる。
- 25日から26日にかけて、高気圧が日本海から日本の東へ移動する。
- 26日から27日にかけて、低気圧が黄海から日本海を北東に進み、前線が日本付近を東進する。
- 28日は、低気圧はオホーツク海へ進み、大陸の高気圧が東シナ海へ張り出す。

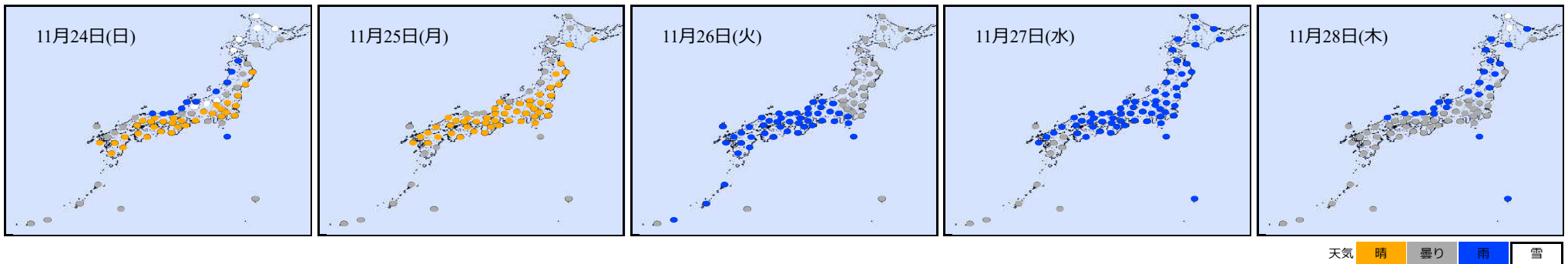
## &lt;防災事項&gt; 11時、17時発表の早期注意情報に合わせて当項目は修正する場合があります。

- 24日頃にかけて、冬型の気圧配置の影響で、北日本を中心に荒れた天気となる。また、千島近海の低気圧の発達程度等によっては、北海道地方では大しけとなるおそれがある。
- 令和6年能登半島地震で揺れの大きかった地方は地盤の緩んでいる所があり、少しの雨でも土砂災害の危険度が高まるおそれがある。

※最新の早期注意情報、気象情報、台風予報も参照ください。

以下の資料は、気象事業者等が、気象庁の提供する週間天気予報の根拠を理解するための補助資料であり、そのままの形式で一般に提供することを想定して作成したものではありません。

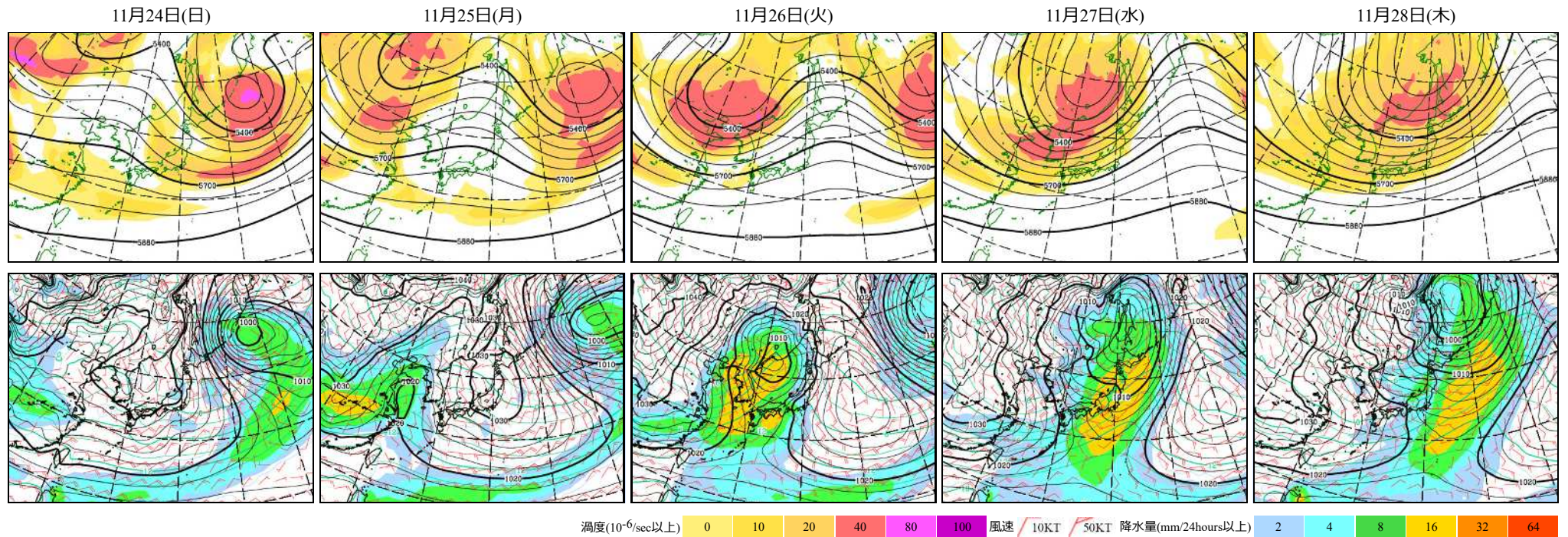
## ◆10時時点の3～7日目の天気予報案 (11時以降は気象庁HP等にて発表予報をご利用ください。)



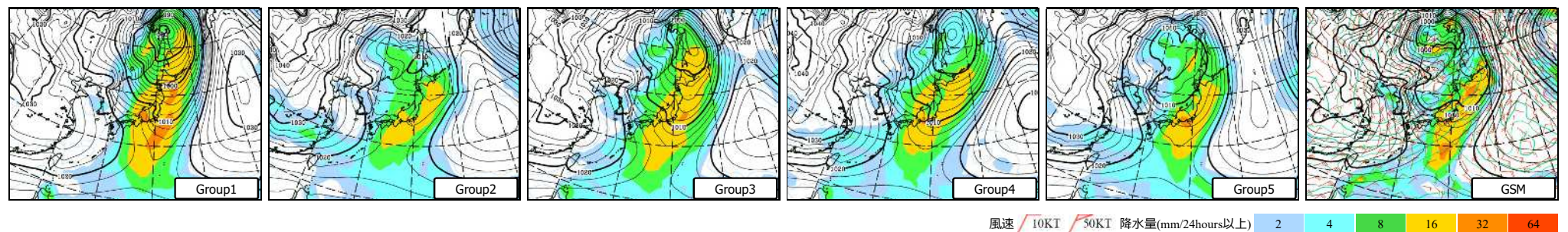
- 北日本と東日本から西日本にかけての日本海側は、晴れる所もあるが雲が広がりやすく、雨または雪の降る日がある。
- 東日本から西日本にかけての太平洋側は、24日と25日は晴れる所が多い。その後は曇りや雨の降る所が多い。
- 沖縄・奄美は、雲が広がりやすく、26日は雨の降る所が多い。



◆アンサンブル(ENS)平均予想図 上図：500hPa高度線、渦度 下図：海面気圧、地上風、前24時間降水量(21時)



◆11月27日のENSクラスター平均(グループ1~5)とGSMの地上予想図 海面気圧、地上風(GSMのみ)、前24時間降水量(21時)



◆昨日資料からの変化と予想のばらつき

- 最新のアンサンブル資料(ENS)は、26日に日本海を北東に進む低気圧がやや早くなり、北日本の降水確率が増加した。また、27日にサハリン付近へ進む低気圧が明瞭となり、本州付近を東進する前線による降水域も明瞭となったことに対応して、27日の北・東日本で降水確率が増加した。
- 各モデルの予想は、26日に低気圧が日本海を北東へ進み、前線が西日本付近へのびる予想はおおむね揃っている。その後、低気圧がサハリンまたは千島近海へ進み、前線が日本の東へ進む点についてはモデル間の差がみられ、27日に日本海に予想されている気圧の谷についてもモデル間の差がみられる。
- 期間の後半は、5400m付近のトラフのばらつきが大きく、スプレッドが大きい。

◆ENSからの修正点とサブシナリオ等の補足事項

- 予報は、おおむね最新のENSを基に考える。